

錦城護謨株式会社 (大阪府)

世の中の当たり前を変えていく

工業用ゴムや樹脂製品の製造会社。家電製品や事務機器、自動車、食品衛生など幅広い分野に顧客を持つほか、土木関係の資材の生産や、軟弱地盤の改良も行っている。近年では、共同開発した福祉関連の製品が、数々の賞を受賞。世の中の当たり前を変えることに挑戦し続け、2020年からは自社ブランド「KINJO JAPAN」がスタートしている。

INTERVIEW

自社ブランドを作り出す

家電製品ゴム製品では国内で高いシェアを誇る錦城護謨株式会社は、土木事業においても2025大阪・関西万博の会場となる夢洲の地盤改良に関わるなど、安定した事業展開をしている。ただ、主軸事業のゴム製品関連事業はOEMでの部品製造が大半であるため、社名が表に出ない。そのため、社員の仕事に向かう意欲もなかなか向上しないという悩みがあり、自社ブランド製造を望む社員も多かった。そんな中、社内で有志が立ち上がり、ものづくりのまち八尾市の地域プロジェクトを活用した、自社ブランド製品の製作がスタートした。

関西ものづくり新撰に応募しようと思ったきっかけは

自社ブランドと技術力のPRのため。 そして、社員が仕事への誇りを持てるように

応募する際は、自社ブランドのPRと技術力のPRが目的でした。2018年に選定された「歩導くんガイドウェイ」は、「iFデザイン賞」や「キッズデザイン賞」なども受賞していましたし、2021年の「関西ものづくり新撰」も含めて戦略的に取り組んでおり、認知度向上につながっていると思います。たとえば、よく知られている家電製品向けに当社のゴム製品を供給していても、秘匿契約上それを作ったとアピールできなければ、社員は製品を消費者に届けている、社会に貢献しているとい

う実感がわいてきませんし、高い技術力を持っていたとしても、それを認識し、誇りを持つことは難しいです。だから、選定された時は、製作に関わった我々社員が応募を担当していたこともあり、喜びもひとしおでした。社長も、社員が仕事へ誇りを持てるようにしたいと以前より考えており、自社の名前でも技術力をアピールするために自社ブランドを作りたい、という想いは社内ずっとありました。「KINJO JAPAN」はそんな中で生まれた、待望の自社ブランドでした。

製品開発で苦労したことを教えてください

透明でガラスの質感を出すための金型設計と成形

「KINJO JAPAN」は、八尾市の「YAOYA PROJECT」という企画から生まれています。八尾にある中小企業と全国のデザイナーをマッチングして、面白いものを作るというのがコンセプトで、そこに参加したことで合同会社シーラカンス食堂の小林 新也さんと出会いました。小林さんには、プロダクトデザインだけでなく、ブランドの立ち上げや販路開拓にもご協力いただき「KINJO JAPAN」を開発しましたが、一番苦労したのは金型の設計と成形です。

インタビュー



工業品事業本部 営業本部 営業部 営業開発課 課長
吉年 正人氏

輝くカットと、ガラスのような高い透明感を実現するため、金型の磨き込みには妥協無くこだわり、成形の工程開発では試行錯誤を何度も繰り返しました。そうしてできた試作の第1号を見た小林さんが「欲が出た」と言い、更なる改良に挑戦するべく金型を作るところからやり直しましたので、「YAOYA PROJECT」の期限ギリギリまで開発を続けました。社内メンバー4人は、通常業務をこなしながらの製品開発だったので、本業の合間の時間を上手く活用したり、時には残業したりしながら必死で納期を調整しました。苦労も多かったですし、家族には迷惑をかけたな、と感じていますが、「自社製品を自分の手で作り上げたい」という想いを参加メンバーが持っていたので、頑張ることができたのだと思います。

今後の展望をお聞かせください

自社ブランドを扱う事業部に成長させたい

社内メンバーの4人も、デザイナーさんもプロジェクト関係者全員が男性だったこともあり、ターゲットを30～40代の男性にしていたのですが、意外と小さな子どもや高齢の方向けに購入されるケースが多いです。割れませんから、縁起物として贈られる方もおられます。展示会などでは、ガラスではない、と気づいて驚く方が多く、その驚きが購買に結びついています。海外の展示会では複数回出展し

て信頼を得ないと成約に結びつかないと言われる中、1年目ですぐに問屋さんと成約できました。また、展示会では色々と情報収集もできましたので、そこから着想を得てワイングラスも製作しました。現在も同じデザイナーの小林さんと組んで第3弾まで製作しています。現時点では難しいですが、ゆくゆくは「KINJO JAPAN」がひとつの事業部になるくらいまで成長させたいですね。

PRODUCT

対象製品選定年 2021年

新市場創出

KINJO JAPAN E1



透明で一見ガラスにしか見えないコップ(グラス)ですが、素材には柔軟性の高いシリコンゴムが使われた商品です。企画・開発から販売までをクリエイターと共働しており、高級感を演出するべく、デザインは切子模様を施しているほか、ブランドロゴ入りの包み紙で包んだうえ、ロゴの箔押し入りの貼箱でパッケージしています。価格の設定や販売戦略もクリエイターとともに検討し、実施しています。

支援機関からの推薦コメント

「KINJO JAPAN」は、イノベーション拠点「みせるばやお」での共創を通じて新シリーズを続々と展開しており、進化し続ける“ものづくりのまち八尾”を代表するオリジナルブランドです。

支援機関情報

八尾市 産業政策課
大阪府八尾市清水町1-1-6
tel : 072-924-3845
https://www.city.yao.osaka.jp/soshiki/37-1-0-0-0_1.html

会社情報



錦城護謨株式会社
代表取締役社長：太田 泰造

大阪府八尾市跡部北の町1丁目4番25号
tel : 072-992-2321 fax : 072-993-7706
<https://www.kinjogomu.jp/>

企業 HP



ショールームにて「KINJO JAPAN」の誕生秘話を語る吉年氏